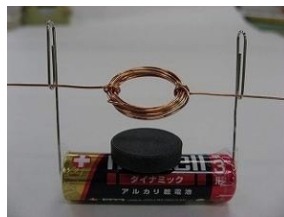


実感を伴った理解を図るために

【白岡町教育委員会】

1 問題解決的な学習となるための授業の流れを浸透させる

事象提示の工夫…教科書を使いながらも、学習の核となる事象提示に工夫を凝らし、児童の興味・関心を高める工夫をする。

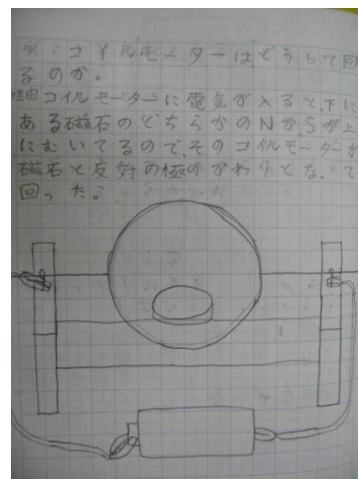
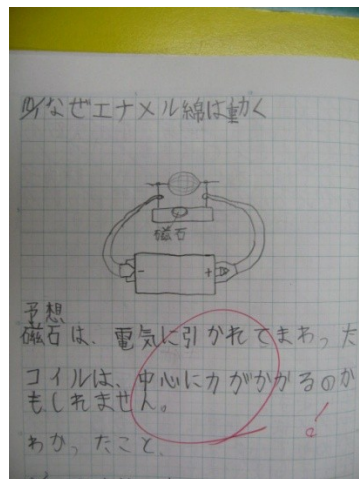


(例) 5年 電磁石
クリップモーターが回
るのはなぜだろう

予想を立てる…初めは一言でもよい。徐々に長く書けるように指導を続け、高学年で仮説が書けるようになるとよい。また、予想や仮説についてたくさん発表させ、話し合いや討論を活発にさせる。



頭の中の考えを、外に出させる



確かめる方法を考える…実験方法を考えさせたり、実験に使う道具の名前、正しい使い方について、きちんと指導する。



観察・実験を行う…ここに時間をかける。児童が主体的に取り組めるよう、3～4人の小グループで活動させる。





1班3～4人の小グループで、実験を行う。担任と理科支援員さんの2人で、実験を見守る。道具の準備や予備実験を必ず事前に行う。

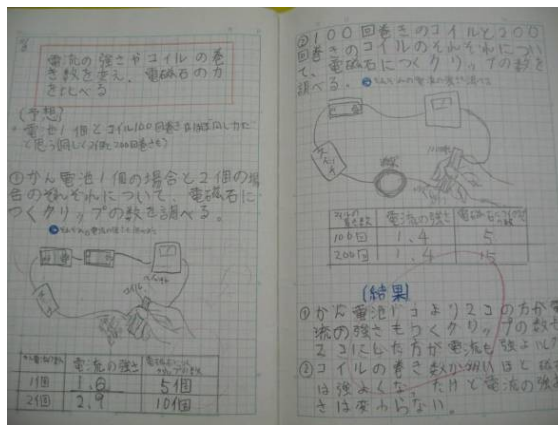
結果を整理する…



グラフ用紙や表を書かせるのも勉強だが、時間を考えると事前に準備しておくのも一つの方法である。また、見たままの結果を記し、言葉でまとめさせる。

結果の考察を行う…

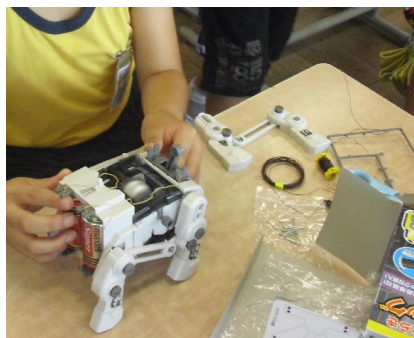
結果そのものや、実験結果から言えること、わかったこと、考えたことなどをグループごとに発表し合う。



学習のまとめを行う…

結果を見比べさせ、誤差の修正を教師が行い学習指導要領や教科書に記載されている正しい言葉でまとめをおこなう。

2 単元のまとめとしてのレポート作りやものづくりを行う



ノート見開き2ページの範囲で、図や言葉で単元のまとめを行う。また、ものづくりを取り入れることで、実感を伴った理解を図る。

